

くものいと第19号目次

田中 穂積	:ゲホウグモとウサギ	1
吉田 真	:ゴケグモ騒動	3
新海 明・金野 晋	:九州(大分県・宮崎県)のクモ	6
加村 隆英	:その後のタランチュラ	10
石丸 智早	:妙見山観察会に参加して	11
19号に登場したクモたち		9
採集会の記録		12
例会の記録		13
例会参加者の近況報告		14
会計報告		16
関西クモ研究会からのお願いとお知らせ		18
16号訂正		19

## くものいと

31-Dec.-1995  
関西クモ研究会  
大阪府茨城市

## ゲホウグモとウサギ

## Part 1

田中 穂積

“ゲホウグモ”を自宅の庭で発見！！私にとっては大発見であった（10月16日、22時30分頃）。小さい庭なのに、そこにいたのである。そもそもこの庭でウサギを1匹放し飼いにしているのだが、そのウサギが昨日から、姿を見せず（庭の奥の石の下に、野生の習性が少しは残っているのか、穴を掘り、その中によく入っている）、餌を食べにも出てこないの心配し、その穴の中や庭木の間を、懐中電灯で捜していたというわけである。その庭木のところでふと、頭を上げると、強い感觸の糸（ジョロウグモのような）に触れて、あれ？と、その糸を見ると、かなり太い糸が2本、木の上に張られている。今まで気がつかなかったのだが、その糸をたどって木の方を見ると、おや？、何か変なクモがそこにいるではないか。そう、この前の、磐梯での講演の中で、宮崎の石野田辰夫さんが発表されていた、うらやましい限りで聞いた、あのゲホウグモの♀が、そこにいたのである。その後、何回も観察したが、きちんとした網を張ることはなかった。その夜は逃げることもないと思い、そのままにして置く。翌日、朝早くから昨夜の糸や木のあたりを見ると、本当に、とうていクモとは思えない、“木のこぶ”でしかない。昨夜の出来事がなければ、とても気がつかなかったにちがいない。さて、ウサギは、朝用事で家を一度出た後帰ってみると、何もなかったように、庭で寝そべっているではないか。あれほど心配させておいて！！本当にこいつは。でも一安心（石の下を、あまりにも深く掘るので、くずれて下敷きになったのではないかと思っていたからなのだが）。そして、このウサギの行動によって、私は初めて、“ゲホウグモ”に出会えたのである。その後、カメラを取り出し、何枚も何枚も、接写。この時のうれしさは、本当に気持ちがいい！！



さて、夕方になり、その糸や木のあたりを見ると、“木のこぶ”から糸の方に移動。丁度この時、夕立のように激しく雨が降ってくる。その間にも、糸と木のあたりで、あのコアラのように、ゆっくりゆっくりと動いているのやら、止まっているのやらという動き。雨も止み、その後、円網に近い網を張ったようである（正確に観察出来ず）。朝、その木の所に行ってみると、その円網はあるのだが、昨日あったその“木のこぶ”がない！！何回も何回もその木を、穴が空くほど捜したが、どこにも見当たらない。ただ“木のこぶ”のようなあのクモの体に触った時の感触と円網が幻想のように存在していることにより、この出来事が現実であった事を証明しているのみであった。本当にたった2夜の出来事であった。それでも、あのウサギの行動が、このように“ゲホウグモ”を私に発見させてくれた。ウサギに感謝、感謝。

———— Part 2 ————

2日前から、ぱったりと姿を消していた？と思っていた、あの“ゲホウグモ”を、同じ木の最初とは違う場所で発見！！それは、あきらめきれず、夕方、今日もひよっとすると、またいるのではと思い、その場所を電灯で照らしてみると、なんと、円網が、なぜか同じ形のまま、位置が変わっているではないか。これは何？風が網の位置を変えた？など頭であれこれ考え、ひよっとしてと、後は、必死に木を、もう一度根元から枝の先まで、何回も何回も照らしてみると、上に書いたように、前とは少し離れた場所に、変な“木のこぶ”がいるではないか。いた！！この感激、もう離さないとばかり、ポットの中のクモとなりました。現在、飼育中です。

## 現地調査

12月3日、私は関西のクモ関係者とともに高石市を訪れた。もちろん、セアカゴケグモの調査のためである。たくさんいたという墓地には殺虫剤が撒かれ、死んだゴケグモが時々見つかるだけだったが、墓石をはがしてみると、その下にはこのクモがしっかりと生き長らえていた。丸っこくて、黒地に赤のワンポイント。なかなかおしゃれで可愛いクモで、我々はすっかり気に入ってしまった。

ちょっと離れた道路沿いの別の場所へ移動。ここも薬は撒かれたというが、いたいた！メスは道ばたの窪みなどに潜み、百数十個の卵が入ったかなり大型の卵のう（卵塊を糸でくるんだもの）をいくつかもっていた。よくみると、メスよりも身体が小さいオスと子グモはたくさんいた。つかれるとクモは死んだ真似をする。手に乗せてもじっとしている。実におとなしいクモである。

昼食後、車で40分ほど離れた貝塚市で調査。ここも薬が撒かれ、テニスコートの側溝では少数が残っているだけだったが、住宅地の空き地では石の下などにかんりのクモが生き延びていた。貝塚市立の自然遊学館では、なんと「セアカゴケグモ写真展」をやっていた！

## 駆除は不可能

セアカゴケグモの分布はいまのところ、大阪南部（高石市、貝塚市など）と三重県の四日市市に限定されている。大阪市は1700カ所の調査にもかかわらず、まだ見つかっていない。全国で一斉調査がなされているから、今後新たな分布地が次々と見つかるかもしれない（12月6日には沖縄でも見つかった）。

しかし、大阪の状況だけをみても、駆除は不可能と言わざるを得ない。これだけの数に増えるためには、定着した時期は数年前までさかのぼるかもしれない。高石市の墓地で出会った人たちは、10年ほど前からこのクモを見かけたといっている。車や列車、人などの移動に伴って全国各地にばらまかれている可能性もある。他の場所に運ばれても定着できるとは限らないが、定着できる条件があれば、いずれ住みついてしまうだろう。

状況から判断して、私たちにやれることは一つしかない。共存することだ。

## なぜ殺虫剤か？

高石市では、いたるところに殺虫剤が撒かれていた。それも残留性の強い有機リン系のものである。しゃがみこんでスポーツセンターのベンチの裏側を調

べていたら、その匂いで気分が悪くなった。当然ながら、ゴケグモ以外の虫やクモもたくさん死んでいた。生態系の崩壊そのものである。幼稚園や小学校にも撒いたのだろう。子どもたちに害はないのか？

駆除するにしても、何でこんな乱暴な方法でやるのか？これはたぶん、担当が衛生局・保健所であることによるのだろう。彼らにとってはごく普通の手続きなのだ。

大阪の状況からみて、殺虫剤であれ他の手段であれ、根絶が成功するとはとても思えない。他の国から侵入した虫を殺虫剤を使って完全に根絶したという話も聞いたことがない。こんなことは専門家に聞けばすぐに分かることなのだ。大阪府や厚生省は知らないのだろうか？

管理責任という言葉がある。池に落ちて子どもが死ぬと、池のまわりに囲いをしてなかった地主の責任が問われる。昔はそんなことはなかった。古きよき時代、子どもは池で魚釣りやトンボ取りをして育った。落ちて死んだ子もいるが、それはその子の不注意ということで済まされた。

行政はこれを恐れているようにみえる。ゴケグモで被害が出たときに、「子どもとしては、できる限りのことはしたんですが・・・」と言いたいのではないか？もしそうだとしたら、これはおそるべき発想である。この無法な殺虫剤の散布は、即刻中止して欲しい。

### セアカゴケグモは危険か？

このクモはどの程度危険なのか？ゴケグモ類は、ジョウゴグモ類と並んで猛毒のクモの代表となっている。死亡率は統計によって異なり、5%とか12%の数字がある。これはもちろん、咬まれた人のうちでこれだけの人が死んだのではなく、病院にかつぎ込まれた重い症状の患者で死に到った人の割合である。それにしても、この数字はかなり大きく、毒性が強いことは明らかである。

ただしこれらの統計は、血清が作られるようになった1956年以前のものであり、オーストラリアでは最近死者はまったく出ていないという。この点で比較するなら、日本でも毎年多数の死者が出ているスズメバチの毒の方がはるかに強いともいえる。攻撃性という点でも、巣の近くでは人を襲うスズメバチの方が、はるかに怖い。

しかし、気になる点もある。スズメバチに刺されれば激痛が走るので、刺されたことがすぐ分かる。医者もどんな処置をすべきかを心得ている。しかし、ゴケグモに咬まれてもチクッとするだけなので、気づかない場合が多いらしい。10分か20分たってから痛みが走り、患部が腫れてくる。重い場合には全身に毒が回り、けいれんなどが起こる。オーストラリアの人々や医者はもちろん、

これらのことを良く知っている。

おとなしいクモではあるが、今後このクモが爆発的に増殖し、全国各地に広がる可能性もないわけではない。そうなれば、アメリカ（ここには数種類のゴケグモがいる）やオーストラリアでそうであるように、誰かが咬まれるのは時間の問題だろう。

だから日本で今大事なことは、一般の人たちや医者にゴケグモに咬まれた場合にどんな症状が出るか、どんな処置をしたら良いのか、を広く知ってもらうことだと思う。分布が確認された地方の病院には、血清を備えておいた方がいだろう。

### よそ者嫌い

セアカゴケグモは、日本ではまったく被害が報告されていない段階で大量に殺戮されている。コレラなどの伝染病ではともかく、虫やクモでこのような駆除がなされたのは日本ではもちろん、世界でも初めてのことだろう。知り合いの中国人女性は、何故こんなことをやるのか、まったく理解できないといていた。

毒を持つものは、日本にもなくさんいる。マムシ、ハブ、ムカデ、ハチ、毒蛾、サソリ（マダラサソリとヤエヤマサソリ）……。しかし、スズメバチを絶滅させる試みなど、聞いたこともない。スズメバチが人を殺してもあまり問題にならないが、ゴケグモは被害がないのに大騒ぎ。これはいったい何なのだ？

一つは毎度おなじみ、日本のマスコミの空騒ぎである。視聴者も、オウムの報道にはもう飽きた。APECも終わった。何か新たなテーマが欲しい。そこに降って湧いたゴケグモ騒ぎ。あまり危険はないが適度に刺激的な、格好の話題である。セアカゴケグモは、このようなマスコミ報道の犠牲にされたといっても良い。

何故このような報道が受けたのか。それは、よそ者に対する日本人の根深い偏見とも関連している。滋賀県立大学学長の日高敏隆さんが指摘しているように、「日本人が人を殺してもあまり問題にしないのに、外国人が人を殺せば大騒ぎする」と同じである。昔からいるスズメバチはやばい奴だが許容できる。しかし、セアカゴケグモはよそから来た不気味な奴なのだ。

前からいくらかそうだったが、今回の事件で私は、日本人がますます嫌いになってしまった。もっとのんびりした国に行きたい。

## 九州（大分県・宮崎県）のクモ

新海 明・金野 晋

1995年7月8日から10日にかけて、クモタケの調査のために九州の大分県から宮崎県を旅行した。クモタケの発見に努めたが、その合間に何種類かのクモも採集した。

ここではその折りに採集したクモのリストを報告する。なお、標本の同定をお願いした谷川明男氏にお礼申し上げる。和名・学名は原則として八木沼（1989）によった。

（以下 F:雌成体, M:雄成体, f:雌幼体, m:雄幼体, y:幼体 を示す。）

## 大分県（杵築城跡, 臼杵城跡, 佐伯城跡）7月8日～9日

キムラグモ	<i>Heptathela kimurai</i> Kishida	f, y
キノボリトタテグモ	<i>Ummidia fragaria</i> (Dönitz)	F, y
ジグモ	<i>Atypus karschi</i> Dönitz	y
ワスレナグモ	<i>Calommata signata</i> Karsch	F, y
ウズグモ	<i>Octonoba varians</i> (Bös. et Str.)	F
ユカタヤマシログモ	<i>Scytodes thoracicus</i> (Latreille)	y
ユウレイグモ	<i>Pholcus crypticolens</i> Bös. et Str.	F
ツリガネヒメグモ	<i>Achaearana angulithorax</i> (Bös. et Str.)	F
オオヒメグモ	<i>A. tepidariorum</i> (C. Koch)	F, y
シロカネイソウロウグモ	<i>Argyroides bonadea</i> (Karsch)	F
ヤリグモ	<i>A. saganus</i> (Dön. et Str.)	y
オナガグモ	<i>A. cylindrogaster</i> (Simon)	y
アシヨレグモ	<i>Labulla contortipes</i> (Karsch)	y
アカムネグモの一種	<i>Gnathonarium</i> sp.	F
ヤセサラグモの一種	<i>Lepthyphantes</i> sp.	y
ムナグロサラグモ	<i>Linyphia nigripectoris</i> (Oi)	F
ナナメケシグモ	<i>Meioneta obliqua</i> Oi	F
センショウグモ	<i>Ero japonica</i> Bös. et Str.	F
ヤマジグモ	<i>Ogulnius pullus</i> Bös. et Str.	F
ナンブコツブグモ	<i>Mysmenella jobi</i> (Kraus)	F, M
オニグモ	<i>Araneus ventricosus</i> (L. Koch)	y
コガネグモ	<i>Argiope amoena</i> L. Koch	M
シマゴミグモ	<i>Cyclosa omonaga</i> Tanikawa	F

ヨツデゴミグモ	<i>C. sedeculata</i> Karsch	F
ギンメッキゴミグモ	<i>C. argenteoalba</i> Bös. et Str.	y
ワキグロサツマノミダマシ	<i>Neoscona mellottei</i> (Simon)	y
サツマノミダマシ	<i>N. scylloides</i> (Bös. et Str.)	y
ヤマシロオニグモ	<i>N. scylla</i> (Karsch)	M
ジョロウグモ	<i>Nephila clavata</i> L. Koch	y
コシロカネグモ	<i>Leucauge subblanda</i> Bös. et Str.	F
アシナガグモ	<i>Tetragnatha praedonia</i> L. Koch	F
ヒラタグモ	<i>Uroctea compactilis</i> L. Koch	F
クサグモ	<i>Agelena limbata</i> Thorell	f. m
コクサグモ	<i>A. opulenta</i> L. Koch	y
ササグモ	<i>Oxyopes sertatus</i> L. Koch	M
ハリゲコモリグモの一種	<i>Pardosa</i> sp.	F
ムナキワシグモ	<i>Cladothela unciinsignita</i> (Bös. et Str.)	F
メキリグモの一種	<i>Gnaphosa</i> sp.	y
コハナグモ	<i>Misumenops japonicus</i> (Bös. et Str.)	f
ヤミイロカニグモ	<i>Xysticus croceus</i> Fox	y
ヨダンハエトリ	<i>Marpissa pulla</i> (Karsch)	F
アオオビハエトリ	<i>Silerella vittata</i> (Karsch)	F
アリグモ	<i>Myrmarachne japonica</i> (Karsch)	f

宮崎県 (延岡城跡, 高鍋町毛作, 宮崎県国富町・飯森) 7月9日~10日

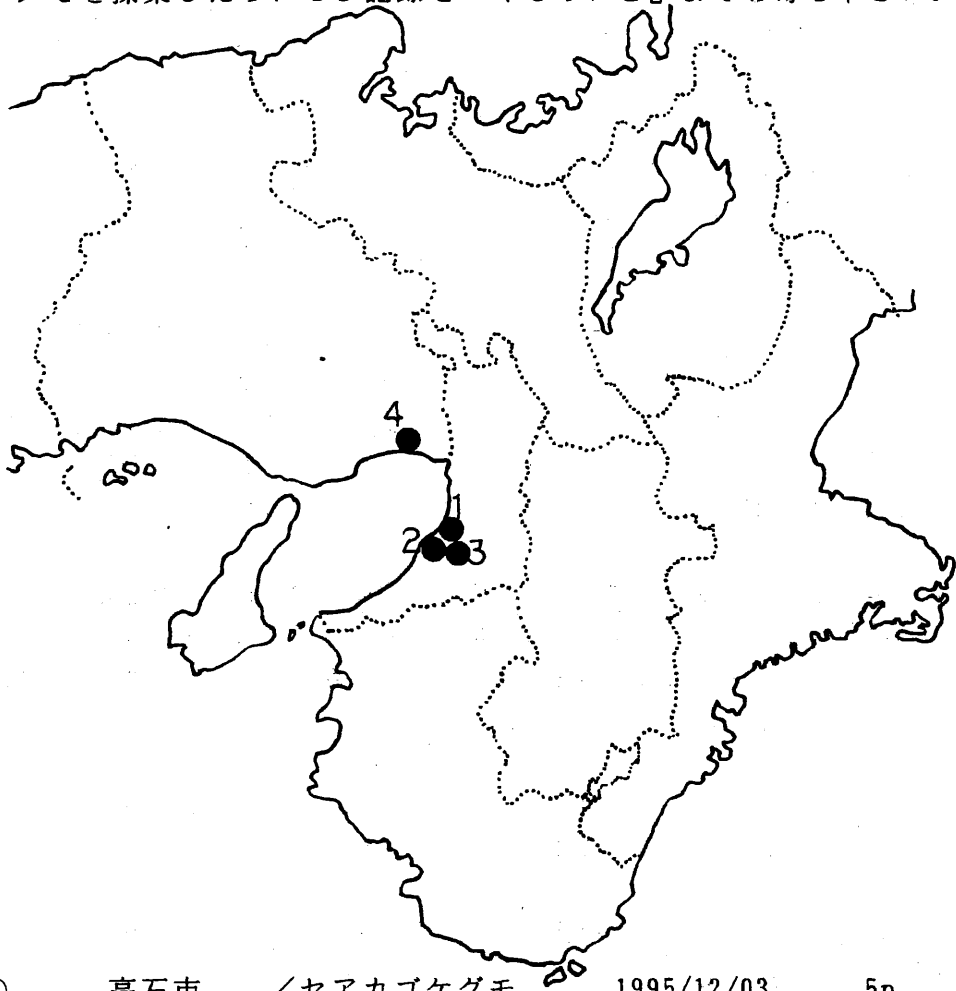
キムラグモ	<i>Heptathela kimurai</i> Kishida	F, y
キシノウエトタテグモ	<i>Latouchia typica</i> (Kishida)	y
キノボリトタテグモ	<i>Ummidia fragaria</i> (Dönitz)	y
ジグモ	<i>Atypus karschi</i> Dönitz	-
クロガケジグモ	<i>Ixeuticus robustus</i> (L. Koch)	F
ウズグモ	<i>Octonoba varians</i> (Bös. et Str.)	F
オウギグモ	<i>Hyptiotes affinis</i> Bös. et Str.	y
ミヤグモ	<i>Ariadna lateralis</i> (Karsch)	F
ユウレイグモ	<i>Pholcus crypticolens</i> Bös. et Str.	F
ツリガネヒメグモ	<i>Achaeearanea angulithorax</i> (Bös. et Str.)	F
オオヒメグモ	<i>A. tepidariorum</i> (C. Koch)	F



カグヤヒメグモ	<i>A. culicivora</i> (Bös. et Str.)	F
ヒメグモ	<i>A. japonica</i> (Bös. et Str.)	y
シロカネイソウロウグモ	<i>Argyrodes bonadea</i> (Karsch)	M
オナガグモ	<i>A. cylindrogaster</i> (Simon)	y
ヤリグモ	<i>A. saganus</i> (Dön. et Str.)	y
アシブトヒメグモ	<i>Anelosimus crassipes</i> (Bös. et Str.)	y
カレハヒメグモ	<i>Enoplognatha transversifoveata</i> (Bös. et Str.)	F
センショウグモ	<i>Ero japonica</i> Bös. et Str.	F
ナンブコツブグモ	<i>Mysmenella jobi</i> (Kraus)	F
ユアギグモの一種	<i>Symphytognathidae</i> gen. sp.	F
オニグモ	<i>Araneus ventricosus</i> (L. Koch)	y
コゲチャオニグモ	<i>A. punctiger</i> (Doleschall)	y
オオトリノフンダマシ	<i>Cyrtarachne inaequalis</i> Thorell	y
サツマノミダマシ	<i>Neoscona scylloides</i> (Bös. et Str.)	F
ドヨウオニグモ	<i>N. adianta</i> (Walckenaer)	F
ヤマシロオニグモ	<i>N. scylla</i> (Karsch)	F, y
ナガコガネグモ	<i>Argiope bruennichii</i> (Scopoli)	y
シマゴミグモ	<i>Cyclosa omonaga</i> Tanikawa	F, y
ヨツデゴミグモ	<i>C. sedeculata</i> Karsch	y
ジョロウグモ	<i>Nephila clavata</i> L. Koch	y
コシロカネグモ	<i>Leucauge subblanda</i> Bös. et Str.	F, M
チュウガタシロカネグモ	<i>L. blanda</i> (L. Koch)	M
アシナガグモ	<i>Tetragnatha praedonia</i> L. Koch	M
ウロコアシナガグモ	<i>T. squamata</i> Karsch	F, M
ヒラタグモ	<i>Uroctea compactilis</i> L. Koch	F
クサグモ	<i>Agelena limbata</i> Thorell	f
コクサグモ	<i>A. opulenta</i> L. Koch	y
ササグモ	<i>Oxyopes sertatus</i> L. Koch	F
ワカバグモ	<i>Oxytate striatipes</i> L. Koch	y
コアシダカグモ	<i>Heteropoda forcipata</i> (Karsch)	y

## 19号に登場した 関西地方のクモたち

関西地方のクモのファウナはあまり報告されていません。そこで今回からしばらく、『くものいと』に登場した関西のクモを地図に載せてみることにしました。採集場所と採集日がはっきり記録されているものであれば、編集で地図にプロットします。『我が家で採集したクモ』も立派なファウナ調査の一部です。クモを採集したら、ぜひ記録を『くものいと』までお寄せ下さい。



- |   |       |                    |            |      |
|---|-------|--------------------|------------|------|
| ① | 高石市   | ／セアカゴケグモ           | 1995/12/03 | 5p.  |
| ② | 貝塚市   | ／セアカゴケグモ           | 1995/12/03 | 5p.  |
| ③ | 富田林市  | ／ゲホウグモ             | 1995/10/16 | 8p.  |
| ④ | 芦屋市緑町 | ／シソグモ・クロガシメグモ・ナリグモ | 1995/11/26 | 14p. |

## その後のタランチュラ

加村 隆英

「くものいと、17号」で紹介したタランチュラたちのその後のようすについて少しだけ記しておきます。

私たちの研究室にやって来た7匹のうち、6匹はあちこちに引き取られていて、現在研究室にいるのは1匹だけです。2匹は金野さん宅に、1匹は西川先生宅に、別の1匹は長谷川さんのところに引き取られ、私も2匹を自宅に連れて帰りました。

金野さん宅に引き取られた2匹のうちの1匹はしばらくして、脱皮しましたが、残念なことにその直後に死んでしまったそうです。脱皮というのは、クモにとってけっこう体力を使うたいへんなことなのかもしれません。

私の家の1匹も11月21日に脱皮しました。金野さんの話を聞いていたので、それからしばらくは心配しましたが、いまのところ特に異常はなく、一応は元気です。脱皮前はくすんだ茶色でしたが、脱皮するととてもきれいな黒いクモになりました。ほんとうに、ほれほれするようなつややかさです。また、脱皮するまでのしばらくの間は、餌を食べず、水もほとんど飲まなかったのですが、脱皮したとたんにさかんに水を飲んでいました。しかし、餌を食べだすには4～5日かかりました。

クモにも個性があるみたいで、この脱皮した個体は触られるのがきらいです。他の個体は頭胸部を両側からはさむようにして持ち上げれば、おとなしくしているのですが、この個体は体に触ると脚をじたばたさせて、第四脚で腹部を掻いて毛を飛ばそうとします。我が家では、“だだっこタラちゃん”と呼んでいます。

また、長谷川さんのところの個体も脱皮したと、このあいだお手紙をいただきました。やはり、脱皮の前後はまったく餌を食べなかったそうです。

訂正：前回の記事で、「神戸税関」から連絡があったと記しましたが、これは「大阪税関」の誤りです。

## 妙見山採集会に参加して

石丸 智早

「食欲の秋」を堪能して、だいぶ体もなまっているなあと感じ始めていた私に、田中女史はこう言った。

「今度の日曜日、ハイキングに行かない？」

この心くすぐるような申し出と、女史の微笑みに、私は深く考える事もなく、

「はい、行きます。」

と答えていた。それを聞いた女史は、

「あなたなら行くと思っていただわ。」

と、またにっこり微笑んで、こう言葉を続けた。

「実はね、昆虫採集しながら野山を歩くの。」

「昆虫・・・ですか？（ただのハイキングじゃなかったのか・・・）」

「昆虫といってもね、蜘蛛なんだけど。」

「えっ」と出そうになった言葉をのみこんだ私に、

「大丈夫。ついて歩くだけだから・・・」

「は、は、はい。それじゃ、よろしくお願いします。」

と言いながら、戸惑いが駆け巡っている頭をべこりと下げた。

週末が近づいて、どうも当日は天気が崩れるらしいと聞いたとき、中止になるのではと思ったのだが、結局この期待は裏切られ、予定通り行われることになった。

当日、スニーカーを履いてナップサックを背負った途端、蜘蛛のことなんかすっかり忘れてハイキング気分。駅前で、蜘蛛採集のメンバーの皆さんと合流。どこから見ても「ただものではない」といった風の教授の方々と、「いかにも」っていう風の学生さんたちに、ちょっと緊張しながらも、初めて行く妙見山に心もウキウキ。いざ出発。

ところが、数10メートルも行かないうちに一行はストップ。民家の塀からはみだした植木を見たり、何やら古ぼけた倉庫の軒先や壁を丹念に見たりと、なかなか前に進まないのだ。最初は後ろの方で遠巻きにしていたのだが、恐る恐る前の方に進んでみると、すでに何種類かの蜘蛛を採集しているではないか。その話を聞いてみると、これが結構面白い。普段見過ごしている場所に、実に様々な蜘蛛が、様々な巣を張りながら生息していることに驚いた。なるほど、そう言われてみればこんな所にも、あんな所にも。振り返ると、空き家の硝子に大きな蜘蛛が張りついているではないか。

「先生、これは何て言う蜘蛛ですか？」

「おうっ、これは見事な〇〇〇だ。」（蜘蛛の名前を忘れてしまった。）

「ほうっ、本当ですねえ。これはすごいですねえ。」

「取りたいなあ。」

「写真だけでも・・・」

など、話が盛り上がっている。結構いかした発見だったようだ。もうこうなつてくると、「蜘蛛なんて・・・」と顔をしかめている場合ではない。一行に遅れを取ってはならないと必死について行けば、蟻に似たような蜘蛛だとか、綺麗な緑色の蜘蛛だとか、模様が非常に美しい蜘蛛だとかが次々見つけられていく。（ちゃんと名前を聞いたのに、やっぱり覚えていない。）いつの間にか、すっかりこのハイキングにはまってしまったようだ。

正直言って、蜘蛛とはあまり親しくなりたくない私だったが、一日、先生たちについて蜘蛛搜しのハイキングをしてみて、「自然の中に生息している蜘蛛は何て美しいんだ」と感激した。今まで生きてきた中で、これほど蜘蛛に親しみを感じたことがあったらどうか。とにかく、予想に反して（ごめんなさい）すばらしくいい一日だった。これからは、蜘蛛もそんなにいやではなくなるかなあなどとも思ったりして・・・

翌日すがすがしい気分が目覚めると、窓の隅に黒っぽい小さな蜘蛛を発見。

「いや～っ」

と思わず目を背けてしまった。

「やっぱり、急には蜘蛛と友達にはなれないか・・・」

## ★★★★★★★ 採集会の記録 ★★★★★★★

今年度の採集会は妙見山方面で行っています。第3回目の採集会は1996年3月24日(日)です。採集および確認されたクモのリストは、3回目が終わった段階でまとめて発表する予定ですので、今回は第1, 2回目の参加者名を記録するにとどめます。

◎1995年6月25日(日)

参加者：金野晋，加村隆英，田中穂積，寺田知美，西川喜朗，畑守有紀，  
細田みどり。(7名)

◎1995年10月1日(日)

参加者：〔本会会員〕加村隆英，田中穂積，西川喜朗，吉田真。  
〔田中先生のお友達〕石井尚子，石井孝紀，石井謙次，石丸智早，田中和代。  
〔追手門学院大学の皆さん〕柴田達弥，永井大輔，長野健，前田晃，  
松田忠司，矢谷慈國。(15名)

1995年11月26日(日) 午後1:30~6:00

於：追手門学院大学

出席者：小笠原幸恵，加村隆英，清水裕行，須賀瑛文，田中穂積，垂水有三，寺田知美，東條清，徳本洋，西川喜朗，長谷川夕希子，畑守有紀，船曳和代，牧野達也，榊元敏也，榊元智子，山野忠清。(17名)

◎府県別のクモのファウナ調査について

下記の6名(おもに日本蜘蛛学会の自然保護委員会連絡委員の方々)から各府県の調査の状況について報告された。

田中穂積(大阪府)，畑守有紀(滋賀県)，須賀瑛文(岐阜県)，東條清(和歌山県)，徳本洋(石川県)，清水裕行(兵庫県)。

(京都府担当の吉田真さんは欠席であったので，資料のみ配付された。)

◎セアカゴケグモの話(西川喜朗，山野忠清)

◎総会

例会に先だって開いた役員会〔出席者：西川(会長)，加村(庶務)，山野(会計)，畑守(編集)]の内容(下記)を紹介して，承認を得た。

◇年に1回の役員会を原則として例会の直前に開く。

◇1996年度の活動：3回の採集会と1回の例会を予定。採集会は今年度と同じく，1か所で3回実施する。(なお，場所については奈良県方面とすることが総会の場で決まった。)

◇予算案について：本来ならば，予算案を提示し，会員の了承を得た上で運営するべきであるが，年会費1,000円の小さな会であり，「くものいと」の発行以外にかかる支出はほとんどないので，予算案の提示は省略し，年度末に決算報告のみを行うこととする。

◎一人一話(おもに八木沼先生にまつわる思い出を中心に)

この日は例のセアカゴケグモの一件が明らかになった直後でしたので，3社か4社の新聞およびテレビ局が取材におしかけ(どの社もアポイントメントなし!)，休憩時間も西川先生は取材せめて，あわただしい例会となってしまいました。

また，徳本先生はご自身が出演されたテレビ番組のビデオを持って来てくださいましたが，時間配分の手際が悪く，残念ながら拝見することができませんでした。お詫びいたします。(加村)

参加者の近況報告 (50音順)

小笠原 幸恵 : 『11月26日に関西クモの例会があるので、行きませんか?』と、須賀先生に誘われたのが11月上旬・・・『行きます、行きます!』と、ご返事したのが11月半ば・・・そして突然の11月24日の“毒グモ”事件! わっ、なんてLucky!!! それからの2日間は、頭の中がセアカゴケグモでいっぱい、今日、セアカゴケグモだけでなく、ゲホウグモも見せて頂き感激しております。本当にありがとうございました。

清水 裕行 : 阪神大震災の被害は比較的軽微ですみ、標本・文献はほとんど無事でした。その節は会員の皆様から御心配、お見舞いをいただき本当に有難く思っております。

研究活動を再開したのはつい最近のことです。昨年の例会で中間報告した「兵庫県のクモリスト」は早急にまとめたと思います。八木沼先生が御健在のときに発表できなかったのが残念です。

今年になってから調査・採集には一度も行っていないので、自分では特に収穫はありませんが、陸貝を研究している知人からもらった標本の中にカトウツケオグモの♂の亜成体がありました。♂は2例目だと思います。場所は宝塚市で、以前四ノ宮兄妹が♀を二頭採った所の近くです。

須賀 瑛文 : 中部蜘蛛懇談会『蜘蛛』No. 28 の編集を間もなく始めます。12月中にはなんとか発行までもっていきたいと考えていますが、少し遅れるかもしれません。今日、とても楽しい会でした。ありがとうございました。

田中 穂積 : 来年から、また、新しい授業科目が多く始まるため、そのノート作りにあけています。もう少し活動しなければと考えているのですが、なかなかです。今後ともよろしくお願い致します。

垂水 有之 : ●1993年7月から東京に単身赴任しています。先日、下の娘と東京駒込にある『六義園』を散歩した時に『蜘蛛(ささげ)の道』と呼ばれる地点に出くわしました。4月に亡くなられた八木沼先生の研究室が『細蟹舎(ささげのや)』だった事を思い出しました。●兵庫県のクモとして私の家の近くに住むクモを紹介します。今日、見えていますので採集日は1995・11・26の日付けとします。

1 シモングモ : 芦屋市緑町1-9-404 ♀多数。

2 クロガケジグモ : 芦屋市緑町付近に非常に多い。

3 チリグモ : 1に同じ。♀1。

---

東條 清 : 現在、イトグモの飼育実験中(本年で5年目)、イトグモの資料ありましたら是非教えていただきたいと思います。

徳本 洋 : まったく専門外の都市鳥の調査に引っ張り込まれたり、昆虫の調査に追われたりという具合で、クモの仕事をする時間がとれず、困っています。断り切れない筋からの依頼をも断る勇気を養う必要があります。

長谷川 夕希 : 最近、ハナグモを飼っています。

以前から写真を見て「パステル調の体色、そして名前が素敵。」と思っていたので、偶然見つけた時は「ラッキー！」でした。(当然)スイカをあげてみたところ、すぐにお気に召していただきました。意外とりんごも好物で、ヘタな昆虫をあげるより、残さず召し上がってくれます。

今日、タランチュラをいただけるので、またいろんな餌をためしてみたいと思います。(もちろんスイカも。)

畑守 有紀 : 最近、交野市に引っ越しました。新米教師に時間はなくて、セアカゴケグモのことも同僚の先生から聞いて知ったくらいです。ところでこのクモの出所は・・・うちの研究室ではもっぱらオウム説が唱えられています・・・。やっぱり教師って世間に乗り遅れてるのかも!

船曳 和代 : 長期にわたる子供の入院と自宅療養があり、ここ2~3年は野外に採集・観察に出かけることなく過ごしています。

やっと一段落した状態なのでぼつぼつ近くの山へ出かけたいと思っています。

今年は5月から7月にかけて庭にギンメッキゴミグモと、ヤマゴミグモが2匹網を張りました。そしてギンメッキゴミグモとヤマゴミグモの1匹は6月の中旬、10日ばかりの間、さまざまな形の隠れ帯をつけてくれ、毎日それを見るのが楽しみでした。

ヤマゴミグモ、ギンメッキゴミグモとも雌のようで、ひょっとして雄との交尾・産卵が見られるかと期待したのですがそのうち相次いでいなくなってしまうました。

山野 忠清 : 私は今年多忙にかまけてクモの採集はほとんどしておりませんが、11月に入り私の家の近くにセアカゴケグモが生息していることがわかり、この調査に参加させて頂いています。

※他に、加村隆英、寺田知美、西川喜朗、牧野達也、榎元敏也、榎元智子の各氏が参加されました。

---



関西クモ研究会 会計報告

<1992年度 会計報告> (本年より会費制を採る)

= 収入 =		
1991年度までの繰越		7000 円
1992年度会費 (38名分)		38000 円
合 計		45000 円
= 支出 =		
『くものい』と11号』 発送費		5500 円
『くものい』と12号』 発送費		5805 円
採集会 (和歌山県美里町) 案内発送費		1750 円
採集会 (京都府宇治市) 案内発送費		2610 円
採集会 (大阪府堺市) 案内発送費		1845 円
採集会 (兵庫県) 案内発送費		553 円
採集会 (大阪府) 案内発送費		1845 円
合 計		19908 円
(差引残高) 次年度繰越		25092 円

<1993年度 会計報告>

= 収入 =		
前年度繰越		25092 円
1993年度会費 (46名分)		46000 円
合 計		71092 円
= 支出 =		
『くものい』と13号』 発送費		5040 円
『くものい』と14号』 発送費		9310 円
合宿 (三重県熊野市) 案内発送		3151 円
振込手数料		515 円
合 計		18016 円
(差引残高) 次年度繰越		53076 円

<1994年度 会計報告>

= 収入 =		
前年度繰越		53076 円
1994年度会費 (45名分)		45000 円
例会・親睦会残金		2660 円
合 計		100736 円
= 支出 =		
『くものい』と15号』 発送費		7600 円
『くものい』と16号』 発送費		6560 円
役員間連絡費 (市糸の森) 案内発送費		1460 円
採集会 (大阪府) 案内発送費		2000 円
採集会 (大阪府) 案内発送費		3200 円
採集会 (大阪府) 案内発送費		3590 円
合 計		27730 円
(差引残高) 次年度繰越		73006 円

<1995年度会計報告（中間報告）>

= 収入 =			
	1994年度繰越金	73006	円
	1995年度会費（'95/10/30 現在33名分）	33000	円
	『くものいと18・八木沼先生追悼号』寄付	18527	円 ㊟1 ※
	『くものいと18・八木沼先生追悼号』売上	13000	円
合計		137533	円
= 支出 =			
	『くものいと17号』発送費	5910	円
	『くものいと18・八木沼先生追悼号』原稿作成費	7353	円 ㊟2 ※
	同上印刷代	45779	円
	同上振込手数料	1236	円
	同上発送・連絡費	17840	円
	『くものいと』バックナンバー発送費	390	円
	例会案内発送費	4000	円
合計		82508	円
差引残高		55025	円

㊟1 ※ 18号への寄付 18317 円 + 寄付 210 円  
 ㊟2 ※ スクリーントーン代 5036円 + 写真焼増代 2317円

<阪神大震災に関する特別会計（1995年1月～8月）>

= 収入 =			
	阪神大震災義援金	217000	円
	阪神大震災見舞金発送費一部補助	3320	円
合計		220320	円
= 支出 =			
	阪神大震災見舞金（6名へ）	216000	円
	同上 発送費	4320	円
合計		220320	円
差引残高		0	円

<1996年度以降の会費納入状況>

	1996年度（14名分）	14000	円
	1997年度（3名分）	3000	円
	1998年度（1名分）	1000	円
（合計 '95/11/30 現在）		18000	円

会計 山野 忠清

---

## 採集会のお知らせ

---

= 場所 =

大阪府能勢郡能勢町妙見山方面

= 日時 =

1996年3月24日(日)

AM 10:00 能勢電鉄『妙見口』駅 改札口集合

※ 春のクモの調査です。ふるってご参加下さい！！



誤

正

- P4. 9. Achaeearnea → Achaeearanea  
21. (Yosida) → (Yoshida)  
P5. カカラグモ科 前の番号削除  
33. Thridiosomatidae → Theridiosomatidae  
36. Walck Walck → Walck \_\_\_\_\_  
P6. 67. A. mimula → A. minuta  
P7. 101. Clubiondae → Clubionidae  
P8. 109. Kaarsch → Karsh  
124. Karsch Karsch → Karsh \_\_\_\_\_  
127. Jotus → Phintella  
P9. 01. 23 科 → 24 科

<関西クモ研究会>

会長 西川 喜朗  
編集 吉田 真  
畑守 有紀  
庶務 加村 隆英  
会計 山野 忠清

くものいと 第19号

発行年月日： 1995年12月31日

発行者： 関西クモ研究会 (代表 西川 喜朗)

住所： 〒567 大阪府茨木市西安威2-1-15

追手門学院大学 生物学研究室内

Tel. 0726-43-5421 (内線 5113 西川研, 5106 加村研) Fax. 0726-43-5427